

NEW

ネ

ネットワーク



Network Shimada

発行者

島田療育センター
院長 木実谷 哲史

AAC 機器の活用



トーキングエイド for iPad

皆さんはAACという言葉を知ったことがあるでしょうか。AACはAugmentative & Alternative Communicationの略で、日本語では「拡大代替コミュニケーション」と訳されます。AACは「手段にこだわらず、その人のすべてのコミュニケーション能力を活用して自分の意志を伝えること」で、発話、文字、身振りや手振り、機器の利用など手段を問わないコミュニケーションの手段のことを指します。今回はその中でも、音声によるコミュニケーションが難しい方向けの、機器を使ったAACについてご紹介致します。

島田療育センター内にあるピコピコルームでは、実際に使って使い勝手を試したり、操作を練習したりできるようにとたくさんのスイッチやコミュニケーション機器を揃えています。その中でも VOCA (音声出力式コミュニケーション機器) と呼ばれる機器は、ボタンを直接押したり、任意のスイッチをつないで操作することで音声を再生して気持ちを伝える機器です。例えば ステップバイステップ という機器は、ボタンを押すごとに次々にメッセージを再生していくので、伝えたいことを複数入れておいて目的のところまで再生して気持ちを伝えるといった使い方ができます。➔

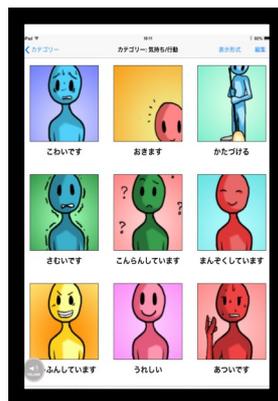
また、ご存じの方も多いかと思いますが、最近ではiPadやiPhoneといった機器もコミュニケーション用途に使えるようになってきました。「DropTalk」、「Voice4U」などに代表されるシンボルタイプのコミュニケーションアプリや、「トーキングエイド for iPad」のように50音の文字盤を操作して文章を作るアプリが安価に公開されており、コミュニケーションエイドがより身近なものになってきています。東京都障害者IT地域支援センター（東京ITC）が運営するホームページには、ジャンル分けされた便利なアプリ一覧も掲載されていますので、これからアプリの利用を考えている方にはとても参考になると思います。

AACにおいて必ずしも機器を利用することが最善ではありませんが、上手に使いこなせばとても便利なものです。タブレットやスマートフォンの登場で挑戦しやすくなっていますので、興味をお持ちの方はぜひ試してみてください。

(地域連携情報室 リハ工学士 神田水太)



ステップバイステップ



Voice4U



Drop Talk



地域機関とのつながり

～派遣事業・相談事業を通して～

社会福祉法人 八王子いちょう会

いちょう工房ゆぎは、昭和38年に八王子第一小学校に通う知的障がい児の親たちが中心となり発足した「八王子市手をつなぐ親の会」が設立母体となり、「八王子第六いちょう福祉作業所」として平成12年4月に開所しました。自立支援法への移行に伴い平成21年4月に就労継続支援B型「いちょう工房ゆぎ」としてスタートしましたが、重度の方の受け入れ先が近隣に少なかったため、B型と生活介護の多機能事業所として再スタートし現在に至ります。

元々作業中心の活動が多かったため、生活介護の利用者さんの活動において作業療法を取り入れるために作業療法士の派遣をお願い致しました。ポールやねんどを使って行う作業療法プログラムを通して、表情の少なかった利用者さんにも笑顔が見られるようになり、休まず元気に通所してくれるようになりました。1年間のプログラムで残りわずかではありますが、OTさんと楽しく活動し、経験を活かせるようにしたいと考えています。

(いちょう工房ゆぎ 施設長 守屋 里香)

担当職員より

昨年末、「いちょう工房ゆぎ」の当時の所長さんが、作業療法科の外部向け講習会を受講していただき、工房の生活介護の方々の活動をより充実させるために、OTの視点を取り入れたい、というご要望でこの事業が始まりました。

現在、生活支援の方々は、ご自分の体力作りや維持の為清掃活動や体操に出かけたり、余暇活動として刺し子やビーズ手芸など細かな手作業をしたりと、ご本人の体調や能力に合わせて様々な活動をしておられます。これらの活動を「余暇活動」としてだけではなく、日常生活動作を円滑に行うための上肢機能の向上や体力の維持などにもつなげていければ、というお考えから、OT視点で評価させて戴き、職員さんたちと一緒に活動の展開の仕方を検討・助言していくのが今回の派遣の目的となっています。同じ施設内には就労継続支援B型で授産のお仕事をされている方もいる為、限られたスペースの中でタイプの違う方たちがそれぞれの目的を持って活動を行っていただけるよう、現在模索中です。

月1回の訪問の為、やっと最近工房の皆さんに覚えて頂けたかな、という状況ですが、工房での活動をより充実させたいという所長さんや職員さんの気持ちに応えられる様、頑張らせて戴きたいと思っています。

(作業療法士 福島 史)

多摩市 ファミリー・サポート・センター

ファミリー・サポート・センターは子育てのお手伝いをしてほしい人と、子育てのお手伝いをしたい人が会員になり、地域で支え合う子育て支援組織で、平成26年3月末で1052名の会員がいます。平成26年度は4605件の活動があり、そのうちの約700件(15%)が発達障害などの子どものサポートでした。

主な活動内容は、スクールバスを降りた所から学童クラブへの送りや特別支援学級への送迎です。サポーター役の提供会員は「保護者の方の手助けになるなら」と活動を引き受けてくださっていますが、市民の方で専門家ではありません。道路で寝そべってしまう子や猫や犬を追い掛け回してしまう子など、思いもかけない行動に振り回され、四苦八苦の連続でした。



平成24年度から島田療育センターの心理相談で、子どもが適切な行動を取れるような方法を学んでいます。「困っているのは実は子どものほうだった」と、子どもの視点に立つことの大切さに気付かせていただき、感謝しております。

(センター長 山田 緑
運営団体NPO法人たすけあいの会ばればれ)

担当職員より

多摩市ファミリー・サポート・センターの相談事業は、ファミリー・サポート・センターの職員やサービスを提供する会員に対して、気になるお子さんや発達障害等のお子さんへの理解や対応について、心理判定員が指導や助言等を行うものです。

相談内容は、サービスを行っている中で現在困っていらっしゃるだけでなく、今後困難なことが起きないためにどのようにしていくとよいかといった、先を見通したご相談もあります。相談をお受けすると、職員の方々をはじめ、サービスの提供に関わる皆様がお子さんを理解してより良い対応していこうとされる熱心さが伝わってきます。一度指導や助言をさせていただいたことは、様々な場面でうまく活用されています。

この事業が、サービスを提供される方も利用される方も、気持ち良く活動していくための一助となればと思っています。

(心理判定員 小池 晶子)

親子で楽しく からだをうごかそう!

(社会福祉士 林 貴美子)



↑当日の様子(2回目)

今年初めての試みとして、「親子で楽しくからだをうごかそう!」というイベントを開催しました。健康運動指導士の先生をお招きし、対象を分けて2回実施しました。

1回目は歩行や移動の際に介助が必要なお子さんと保護者を対象に行いました。バランスボールなどを使って、からだをほぐしたり、伸ばしたりしました。みんなで、風や色を感じながらパラバルーンもやりました。



↑当日の様子(1回目)

2回目はひとりでの座位をとることが難しいお子さんと保護者を対象に行いました。

足や手のマッサージからスタートし、アルミ風船や鈴の入った風船に触れて、音や

感覚を楽しみました。ローラーがついたボードに乗って、お母さんと一緒にスピード感を体験しました。両日とも風船のおみやげ付きでした。

参加者からは、「自宅でもできるようなことをアドバイスして頂けたことはとても良かった。」「いろいろな道具も知ることができ、親も楽しめた。」等の感想を戴きました。

先生からは「訓練とは違った環境で刺激や筋肉を動かすことも大切。目からの刺激やいろんな感触に触れることによって、動作を教えること、安心や驚きなどの感情につながっていきます。何よりもお母さんお父さんも一緒にお子さんと楽しくからだを動かして、リラックスすることが一番大切です。」というお話がありました。

3月にも実施予定です。詳細が決まり次第ホームページに掲載します。みなさまのご参加、お待ちしております。



Q: 授業中、窓の外や友達に気をとられてしまい、先生の説明や全体指示を聞き逃してしまう子どもがいます。何回も注意をされて、自信を無くしている様子も見られます。どのように対応したら良いでしょうか?

AD/HDと診断されている子どもには“注意が逸れやすい”という特徴がありますが、言い換えると“視覚的・聴覚的刺激に反応しやすい”とすることができます。つまり、外の景色や、友達の声、教室内の掲示物といった周囲の刺激に反応してしまい、先生の話に目や耳を向けることが難しくなるのです。反対に刺激の少ない環境では、注目すべき対象に注意を向けやすくなり、驚くほど集中できる子どももいます。これはAD/HDの子に限らず、どんな子どもでも同じです。

ですので、まずは子どもの周りにある刺激を整理する必要があります。窓の外や友達が気になってしまう子は、窓際から離れた、先生が注意喚起しやすい一番前の席にしましょう。また、黒板の周りや教室の横の壁には掲示物が無いことが理想ですが、時間割や給食当番表、今週の目標など必要なものもありますよね。でも、それらは授業内容には直接関係のないものなので、授業中は無地の布やカーテンで覆うといった工夫をしましょう。加えて、話を始める前に声かけや手を叩くなどして注目を促すことも大切ですが、子どもが先生の話に注目し続けられるような工夫も必要です。言葉だけで指示や説明を伝えるよりも、課題や活動の中で使う物を見せながら、

やるべきことのモデルを示したり、重要なポイントはイラストを使って示したりするなど、視覚的な情報を利用しながら伝えることが大切です。

また、1つのことに長い時間注意を向けておくことが苦手な子どももいますので、説明が長くならないように、簡潔に伝えることも大切です。「『前を見なさい』と何回も注意しているのだけどな～」と思ったら、

①周囲にある余計な刺激を減らす(刺激統制)

②注目を促す(注意喚起)

③視覚的の手がかりを利用(視覚支援)しながら簡潔に伝える

といった支援を心がけてください。子どもが注目できている時には「ちゃんと見ているね。えらいね」と褒めることが大切なことは、言うまでもありませんね。



(心理判定員 足立 実)

第14回 島田療育センター 公開シンポジウム

自分を好きになろう

～これからの学習の場と発達障害～

◇主催：島田療育センター
 ◇助成：草の根事業育成財団、読売光と愛の事業団
 ◇後援：多摩市、八王子市、
 多摩市教育委員会、八王子市教育委員会

今日、家族のあり方や子どもたちを取り巻く環境は大きく変容してきています。発達障害への認識が広がる中、児童教育においても従来の教育環境だけでは対応が難しいお子さんへの教育、必要に応じた居場所や集団の保障が課題となっています。今回のシンポジウムでは、子どもたちを取り巻く学習環境やその課題、新たな取り組みについて提議し、地域の可能性を探っていきたいと考えます。

講演者

基調講演

山崎 順子 氏

(東京都発達障害者支援センター 「TOSCA」 センター長)

話題提供

高橋 和久 氏

(東京都立秋留台高等学校 副校長)

石田 博彰 氏

(星槎国際高等学校 立川学習センター 副センター長)

有本 潔

(島田療育センター 副院長)

◇日時：平成27年2月11日(水・祝) 13:00~16:10
 ◇会場：ベルブ永山 ベルブホール 東京都多摩市永山1-5

◇対象：関心のある方どなたでも
 ◇参加費：一般 1000円
 (夫婦ペア割 2人で1500円、学割800円/受付で学生証をご提示ください)
 ◇定員：150名(申込み先着順)
 ◇申し込み方法：
 ●ホームページ：<http://www.shimada-ryoiku.or.jp>
 メールフォームからのお申し込みができます。
 ●FAX：042-374-2089 (支援部地域連携情報室)
 ホームページから申込書のダウンロードができます。
 ●メール：info-room@shimada-ryoiku.or.jp
 件名は「公開シンポジウム参加希望」としてください。
 ◇問い合わせ先：島田療育センター 支援部 地域連携情報室
 電話 042-374-2101(直) (電話受付 平日9~17時)



心理相談室第10回講演会

読み書きに困難さのある 子どもの理解と支援



近年の研究で“どこで”“どのように”つまづいているのかという困難さの要因となる特性が、少しずつ明らかになってきました。そうした子ども達の特性に合った支援をしていくために、私たち大人はどのようなことができるでしょうか。今回は、読み書きを中心とした学習に困難さをもつ子どもの特性を理解すること、またその具体的な支援方法について、常葉大学の後藤隆章(ごとうたかあき)先生にお話をいただきます。

日時：平成27年2月28日(土曜日)
 13:30~16:00(受付13:00~)

場所：島田療育センター 厚生棟 ※多摩市の島田療育センターです。

講師：後藤 隆章 氏 (常葉大学教育学部)

定員：120名(要事前申込) 参加費：1,000円 (税込)

申込方法：ホームページの申込フォーム

URL: <http://www.shimada-ryoiku.or.jp> FAX: 042-374-2089

後援：多摩市・多摩市教育委員会・八王子市教育委員会

問い合わせ先：地域連携情報室：042-374-2101

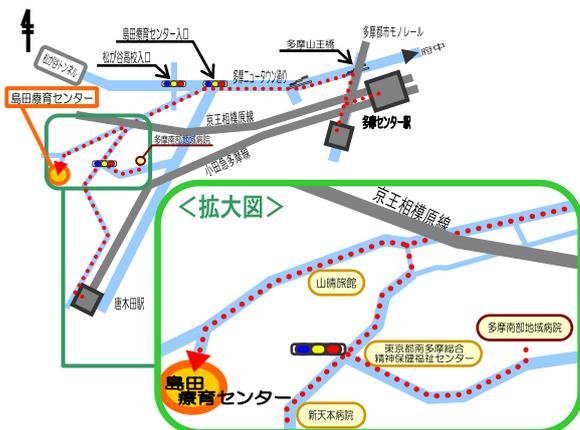
講師派遣事業のご案内

当センターでは、ご依頼により講演会・学習会・職員研修の実施や講師の派遣をしております。

ご相談内容に応じて、各種専門スタッフ(医師・Ns・PT・OT・ST・心理・栄養士等)が対応させていただきます。

開催場所は当センター、またはご指定の場所へ講師としてスタッフを派遣いたします。(お支払いは当法人宛てにお願いしております。)どうぞお気軽にご相談ください。

問い合わせ先『地域連携情報室』
 TEL042-374-2101(直通)



〈徒歩〉
 多摩センター駅下車
 一約20分

〈バス〉
 多摩センター駅
 バスターミナル12番
 乗り場
 「南部地域病院」行き
 一約7分
 終点「南部地域病院」
 下車→徒歩5分

編集後記

“数量、〇〇限定”という言葉について反応してしまう方も多いのではないでしょうか？昨年末も東京駅開業100年を記念して限定15,000枚作成されたSuicaカードを巡り、販売日当日、東京駅周辺はちょっとした混乱が起きた事は記憶に新しいところです。このような限定商品は付加価値がつくのは勿論のことなので、不平等にならないように、当日の混乱を避けるために“完全受注生産”や“抽選”、“期間限定受付”など色々な手法を取ることが必要ではないかと思ってしまう。といえながら私もチケット争奪戦に参加し、昨年末に某アーティストの男性限定ライブに足を運び付加価値を肌で感じてきました。人は関心のある方向には弱いものですね。(湯本)

編集：社会福祉法人 日本心身障害児協会
 島田療育センター 支援部 地域連携情報室
 住所：〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1
 電話：042-374-2071(代表)
 E-mail：info-room@shimada-ryoiku.or.jp
 URL：<http://www.shimada-ryoiku.or.jp>